



# 2003年度 決算説明資料

2004年 4月

# 2003年度 連結決算の概要

(億円)

	'03年度	'02年度	増減	増減率
受注高	26,628	24,809	1,819	7.3%
売上高	23,734	25,938	2,204	8.5%
営業損益	666	1,153	486	42.2%
経常損益	297	781	484	61.9%
特別損益	203	120	323	-
税引前損益	501	661	160	24.2%
当年度損益	217	343	125	36.5%

特別損益の内訳: 退職年金給付利率等改定に伴う過去勤務債務費用処理額 + 358  
 (203) 固定資産売却益 + 57  
 事業改善・再構築に係る特別対策費 202  
 投資有価証券等評価損 10

# 対前年度業績比較 (営業損益・経常損益)

(損益表示: 億円)

		2003年度		2002年度		増減
			(売上高比率)		(売上高比率)	
売上高		23,734		25,938		2,204
粗利益		3,321	(14.0%)	3,899	(15.0%)	577
営業損益		666	(2.8%)	1,153	(4.4%)	486
営業外 損益	為替差損	176		230		+ 54
	金融収支	63		83		+ 20
	その他	129		56		72
	計	368	(-)	371	(-)	+ 2

## 営業損益 増減要因 486億円

- ・売上高減少の影響 331億円
- ・為替の影響 241億円
  - USD/円 @¥122 ('02年度) @¥113 ('03年度)
  - 1-円 @¥119 ('02年度) @¥132 ('03年度) 他
- ・コスト増減 + 86億円
  - ・費用低減 +190億円  
(人員減少による費用減 +119億円 他)
  - ・退職給付債務・数理差異 増加 79億円  
(2002年度未発生数理差異の当期償却増加分)
  - ・一時金・支給対象期間変更による影響 25億円  
( '02年度: +265億円 '03年度: +240億円 )

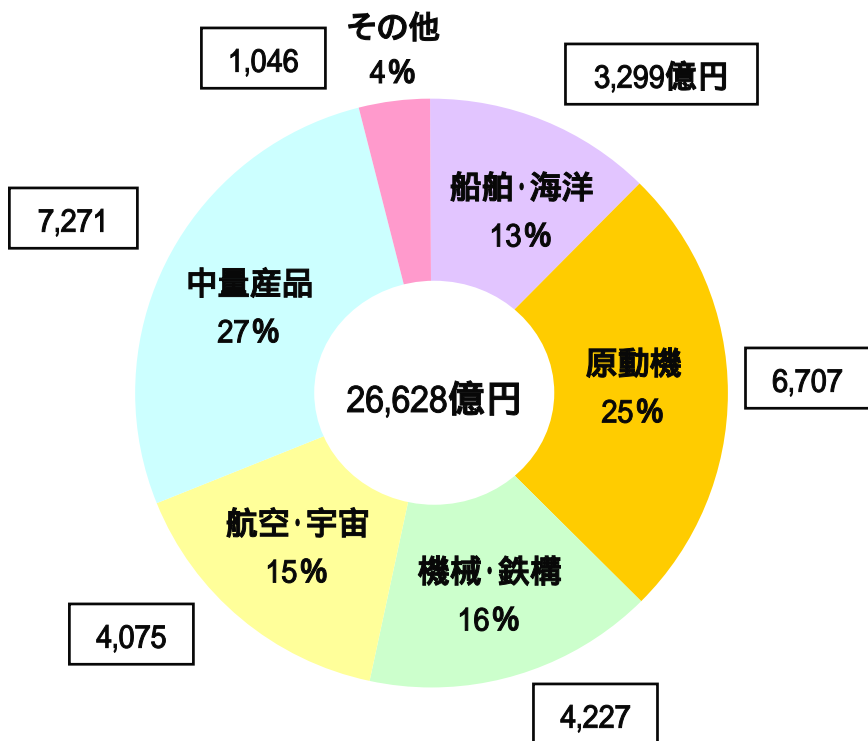
## 経常損益 増減要因 484億円

- ・営業利益減少 486億円 (左記の通り)
- ・営業外損益 + 2億円
  - ・為替差損益 + 54億円
    - (参考)
 

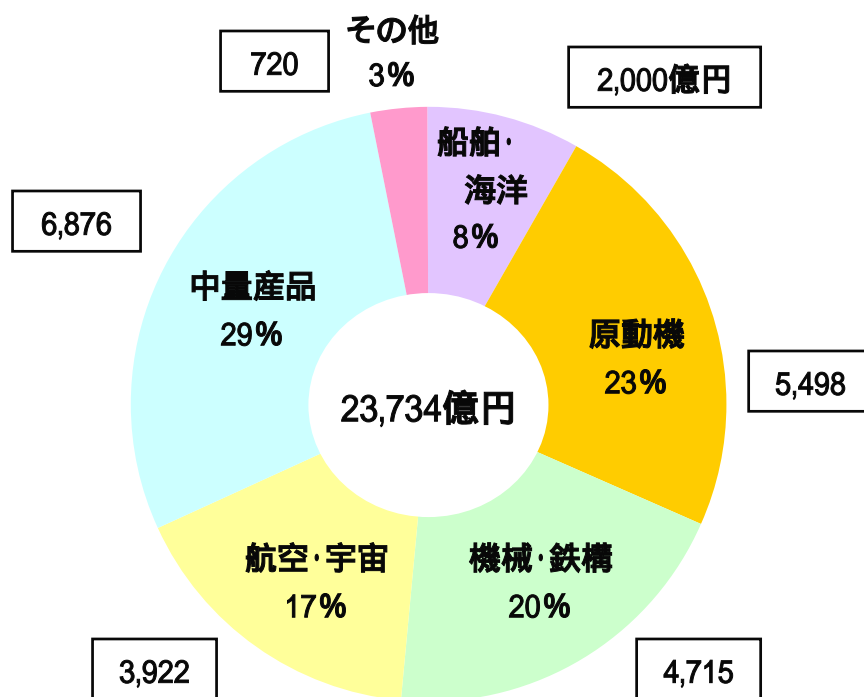
	USD/円	1-円
'03.期末	@¥105.69	@¥128.88
'02.期末	@¥120.20	@¥129.83
'01.期末	@¥133.25	@¥116.14
  - ・金融収支(支払利息減少 他) + 20億円
  - ・その他(固定資産処分損 他) 72億円

# 連結セグメント別の状況(2003年度実績)

## 受注高

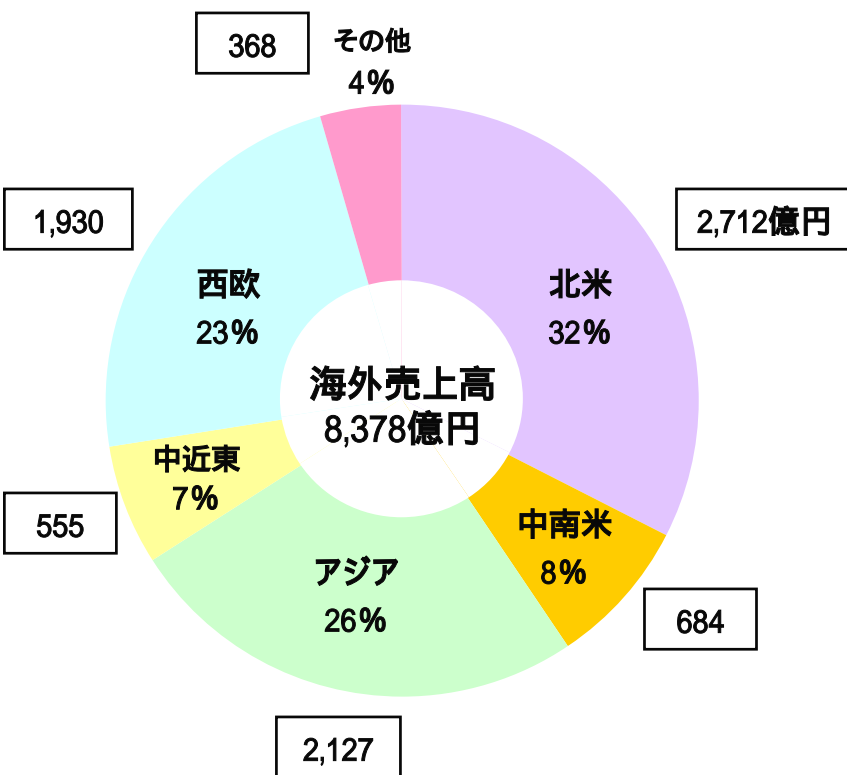


## 売上高

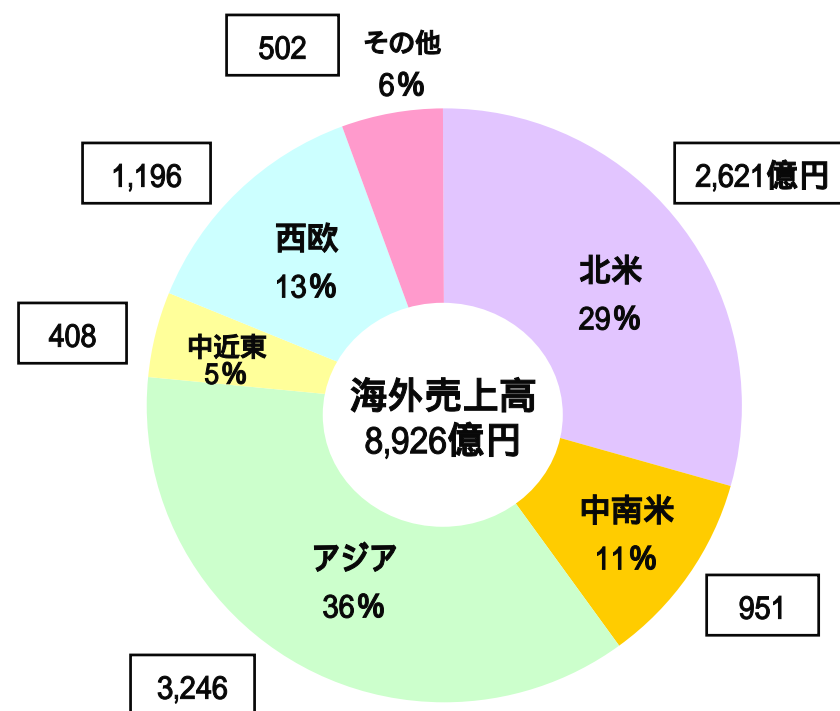


# 海外地域別連結売上高

2002年度実績



2003年度実績

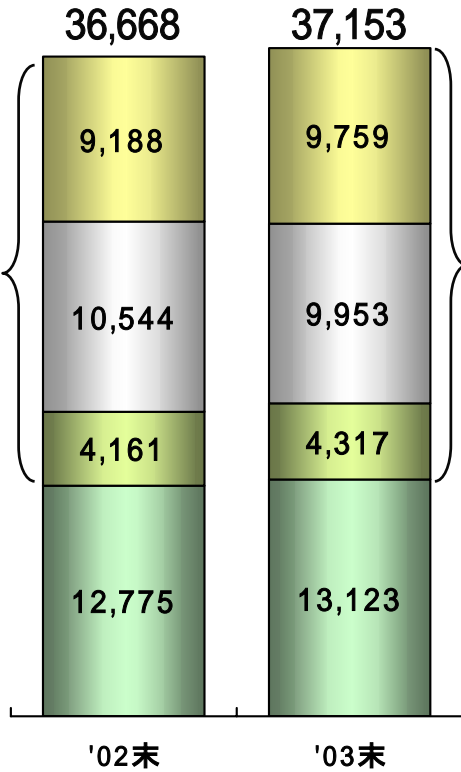


# 貸借対照表

## 資産

- 棚卸資産
- 売上債権
- その他流動資産
- 固定資産

流動資産  
23,893



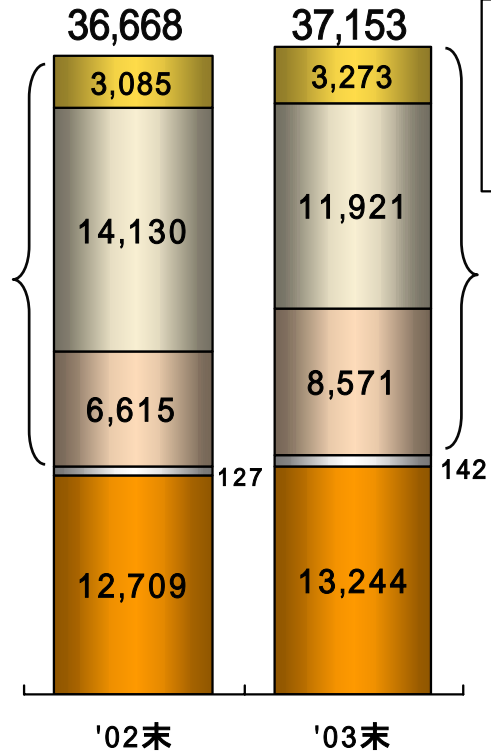
## 負債・資本

及び少数株主持分

(億円)

- 前受金
- その他流動負債
- 固定負債
- 少数株主持分
- 資本

負債  
23,831



	'02	'03
・自己資本比率	34.7%	35.6%
・ROE	2.7%	1.7%

### 資産増減(+484)

流動資産 + 136 : 棚卸資産 + 570、売上債権 591 他  
 固定資産 + 348 : 投資有価証券 + 923、繰延税金資産 276 他

### 負債増減( 64)

買入債務 + 232、前受金 + 187  
 退職給付引当金 374、有利子負債 216 他

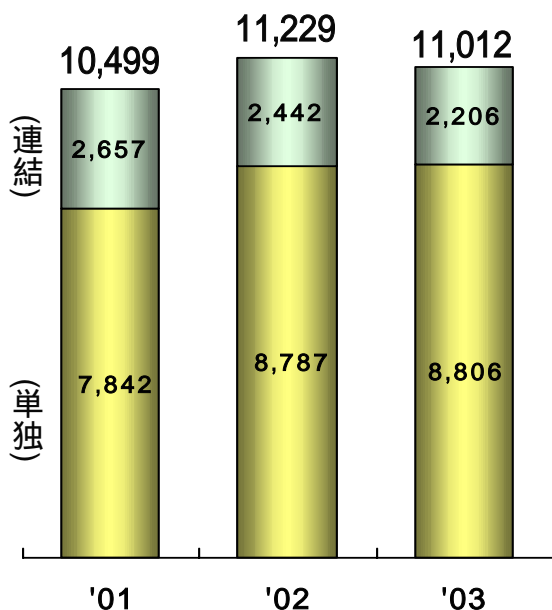
### 資本増減(+535)

評価差額金 + 542、利益剰余金 + 25 他

# 有利子負債・キャッシュフロー

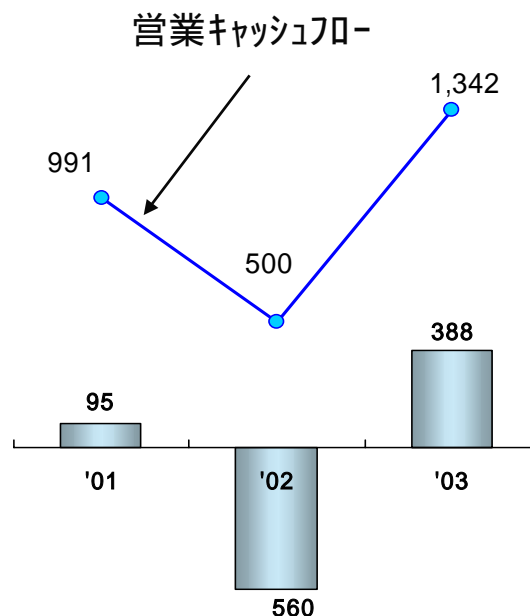
## 有利子負債

(億円)



## フリーキャッシュフロー

(億円)



## '03年度の概要

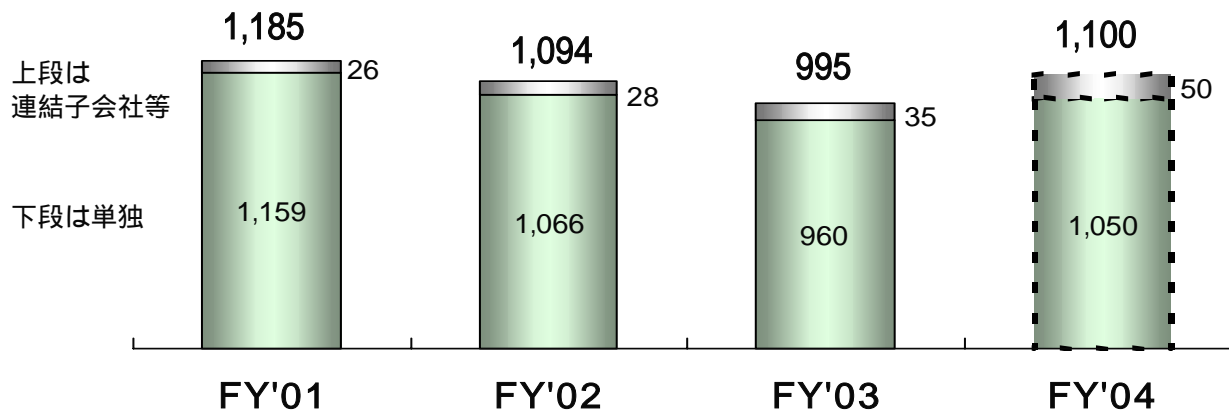
- 営業キャッシュフローはP&Oプリンセスクルーズ社向大型客船等 大口工事の入金があったことにより、前年度から841億円増の1,342億円となった。
- 投資キャッシュフローは固定資産の取得が減少したことにより、前年度から107億円減の 953億円となった。
- この結果、フリーキャッシュフローは前年度から949億円改善し、388億円のプラスとなった。又、有利子負債は前年度から216億円減少した。

	'03年度	'02年度	増減
営業CF	1,342	500	841
投資CF	953	1,061	107
フリーCF	388	560	949
財務CF	444	593	1,037

\* CF=キャッシュフロー

# 研究開発費

(億円)

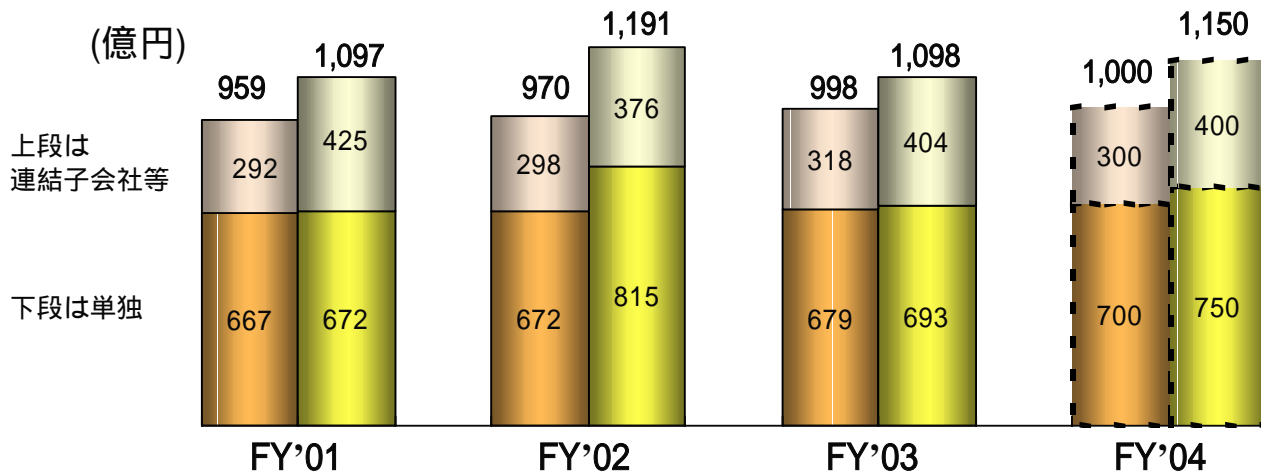
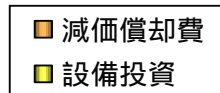


・主力分野を中心とする研究開発投資を継続

- ・ガスタービン
- ・複合材主翼
- ・民間小型ジェット機
- 他

# 減価償却費・設備投資

(億円)



・生産設備の拡充を中心に減価償却費を上回る設備投資継続

- ・工作機械、生産体制を再編・効率化(栗東工場に一元化)
- ・民間機開発/生産用設備
- ・欧州子会社、小型ターボ増産対応
- 他



# 2003年度 単独決算の概要

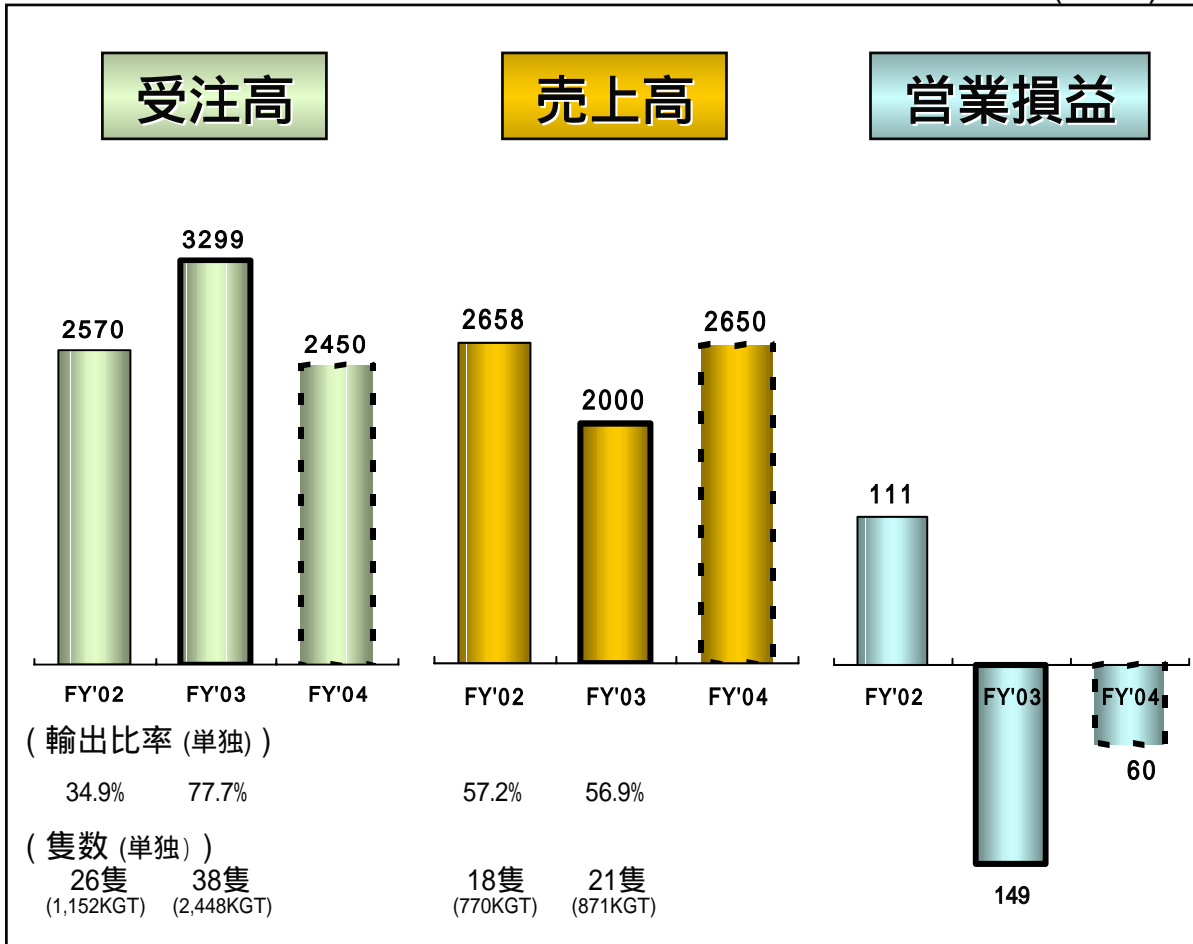
(億円)

	'03年度	'02年度	増減	増減率
受注高	21,592	20,507	1,085	5.3%
売上高	19,401	21,717	2,316	10.7%
営業損益	352	1,030	678	65.8%
経常損益	75	651	576	88.4%
特別損益	161	106	268	-
税引前損益	237	545	308	56.5%
当年度損益	52	301	249	82.7%

特別損益の内訳: 退職年金給付利率等改定に伴う過去勤務債務費用処理額 + 358  
 (161) 固定資産売却益 + 66  
 事業改善・再構築に係る特別対策費 193  
 投資有価証券等評価損 69

# 船舶・海洋

(億円)



## [事業環境・受注]

- 世界経済の回復、中国の高度成長等により、海運市況は好況を持続、2003年の世界の新造船発注量は大幅に増加。
- コンテナ船14隻、自動車運搬船10隻、LPG船5隻、LNG船1隻、VLCC4隻 他、合計38隻を受注。(新造船契約残 65隻、内 LNG船 5隻)

## [売上/損益]

- 輸出船の減少等により減収。損益は為替(円高)の影響があったほか、客船の建造コスト増加、及び債権貸倒れの発生等により前年度を大幅に下回り、赤字。

## [トピックス]

- 人員削減等固定費圧縮を継続  
(事業人員) 5,380 5,160 4,940 4,810人  
( '01/4) ( '02/4) ( '03/4) ( '04/4)
- 客船:「ダイヤモンド・プリンセス」竣工(2004.2)

## < FY'04業績見通し:受注/売上/営業損益 >

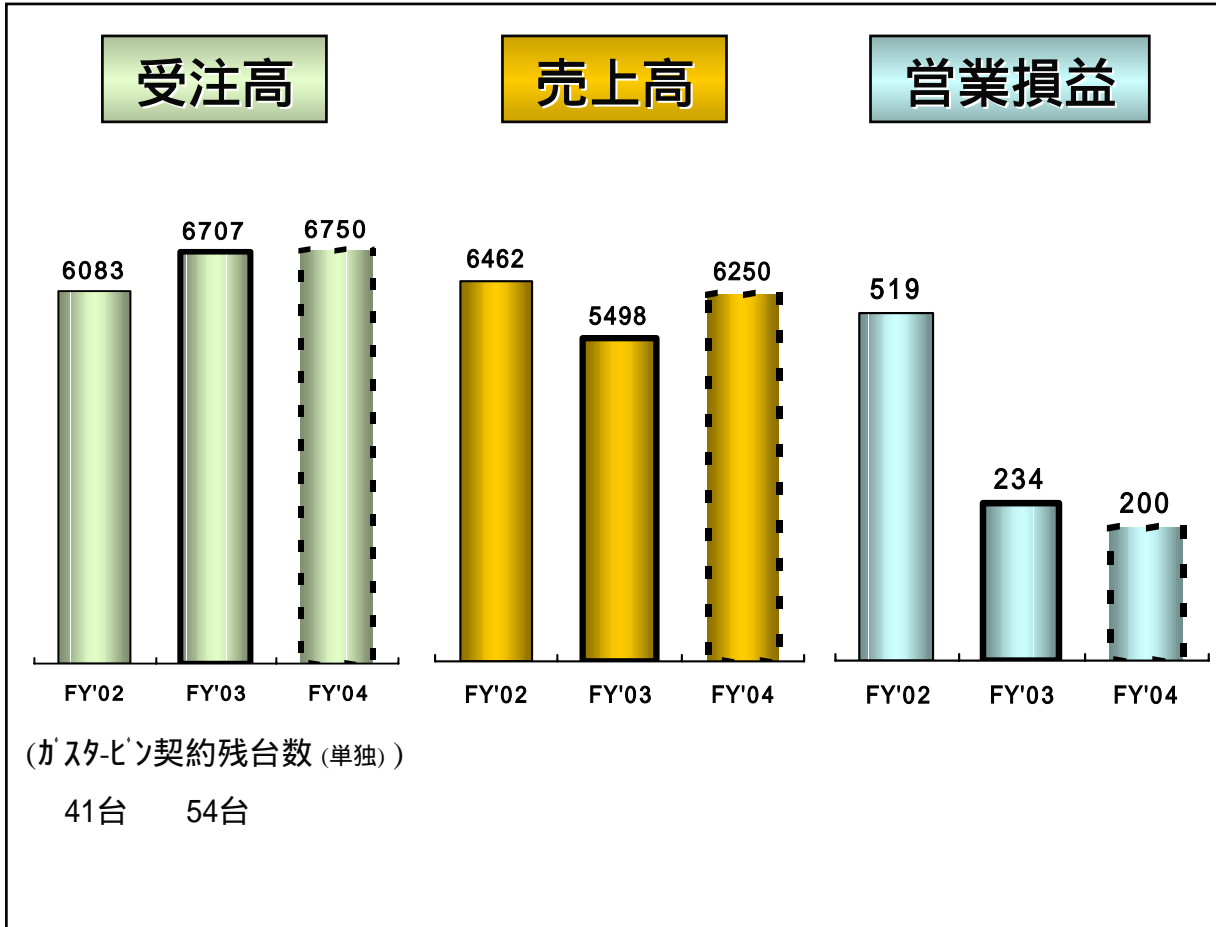
FY'04見通し : 2450 / 2650 / 60

FY'03実績 : 3299 / 2000 / 149

(見通し 3200 / 2000 / 75)

# 原動機

(億円)



## [事業環境・受注]

- 国内は電力関連の設備投資抑制が続き、依然厳しい事業環境、海外はアジア・欧州が堅調。
- アジア・欧州向のガスタービン・コンバインドサイクル発電設備をはじめ、大型商談を相次いで受注するなど、輸出受注が伸長し前年度比増加。

## [売上/損益]

- 事業用・産業用国内工事の他、ガスタービンなど輸出工事の売上も減少し、部門全体でも前年度比で減収・減益。

## [トピックス]

- タイ最大規模の石炭焼き発電プラントを受注
- 世界最大のガスタービン・コンバインドサイクル発電プラントを、台湾電力公司より受注
- 国内・輸出ともに風力発電設備の受注好調

## < FY'04業績見通し: 受注 / 売上 / 営業損益 >

FY'04見通し : 6750 / 6250 / 200

FY'03実績 : 6707 / 5498 / 234

(見通し 7100 / 5500 / 260)

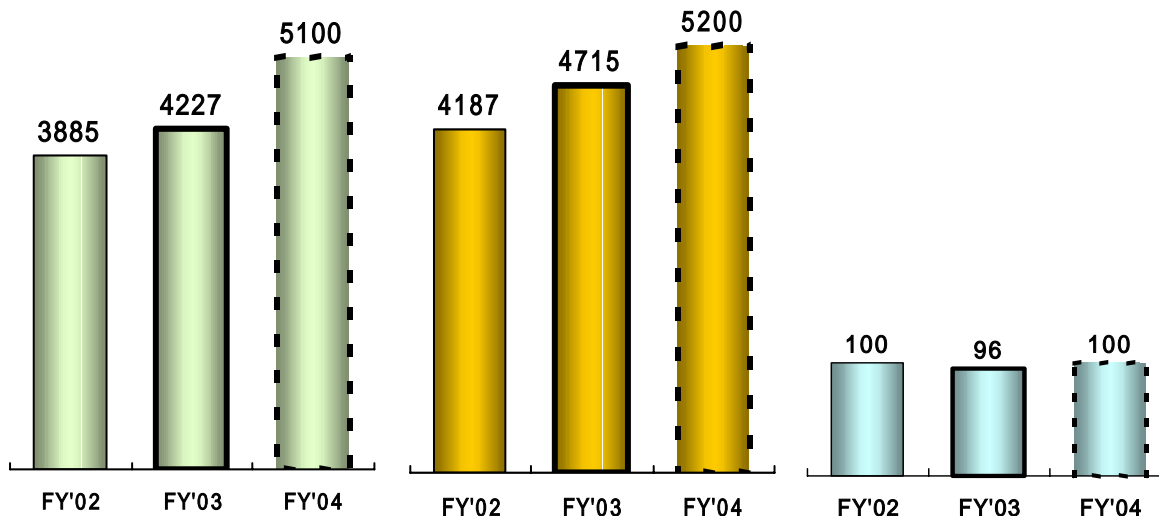
# 機械・鉄構

(億円)

受注高

売上高

営業損益



## [事業環境・受注]

- 海外はプラント、交通システムなど、アジアを中心に案件活発化。台湾新幹線は受注一巡したが、製鉄機械が中国を中心に受注好調。
- 国内は公共投資抑制の中、環境装置(廃棄物処理装置)で、当社初のPCB処理装置を受注するなど伸長。部門全体でも前年度比増加。

## [売上/損益]

- 環境装置など国内公共工事の売上は減少したが、台湾新幹線の売上計上が開始されるなど輸出売上が増加し前年度比増収、損益はほぼ前年度並み。

## [トピックス]

- 環境装置 :PCB処理装置、及びガス化溶融炉を受注(当社初)
- 交通システム:韓国・仁川国際空港向け新交通システム(APM)を受注
- 化学プラント:中国・PTA製造プラントを受注
- 製鉄機械 :FY'03より「三菱日立製鉄機械(株)」を連結子会社へ

## < FY'04業績見通し: 受注 / 売上 / 営業損益 >

FY'04見通し : 5100 / 5200 / 100

FY'03 実績 : 4227 / 4715 / 96

(見通し 4300 / 4800 / 120)

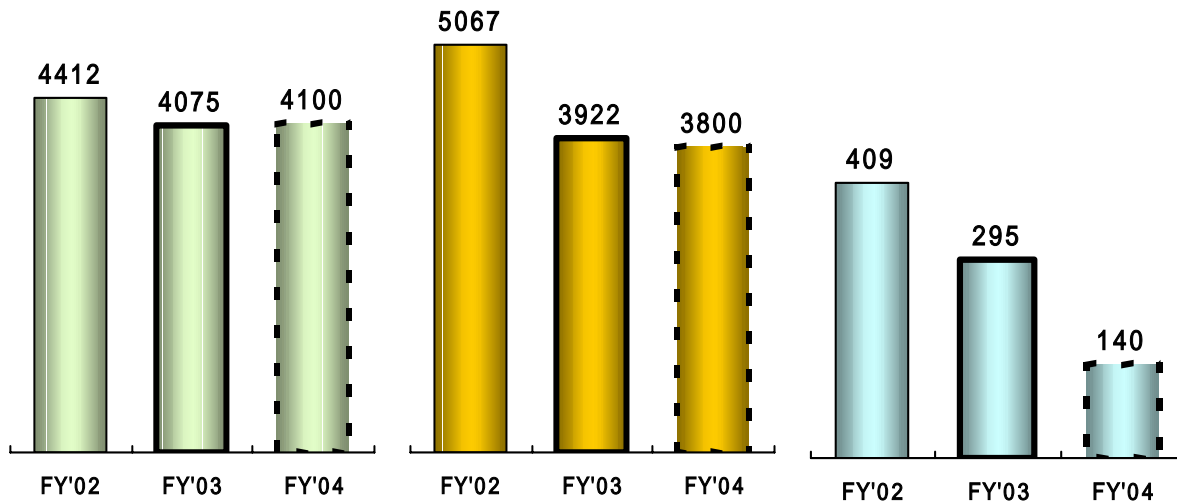
# 航空・宇宙

(億円)

受注高

売上高

営業損益



<引渡機数>

B777: 36機 39機  
B767: 31機 10機

## [事業環境・受注]

- 防衛関係は、BMD導入決定で正面装備予算減少傾向に歯止め。
- F-2支援戦闘機の機数減、民間機の需要回復遅れにより、部門全体で前年度比減少。

## [売上/損益]

- 民間機関係でB767等の引渡機数が減少したほか、防衛関係ではF-2支援戦闘機の売上減少(FY'02の工事進行基準/完成基準・売上併存の影響が主要因)などがあり、部門全体でも減収・減益。

## [トピックス]

- 統合防衛システム室を新設(2003.4)
- F-15J 近代化 試改修1号機を引渡し(2003.10)
- B7E7 複合材主翼の分担内定、研究開発を開始
- 小型国産ジェット機のマーケティング開始
- アリアススペース・ホーミングと商業衛星打上げサービスでの国際協業に合意(2003.7)

## <FY'04業績見通し:受注/売上/営業損益>

FY'04見通し: 4100 / 3800 / 140

FY'03 実績 : 4075 / 3922 / 295  
(見通し 4100 / 3800 / 245)

# 中量産品

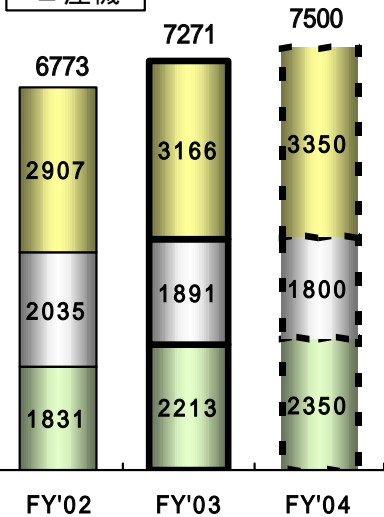
(億円)

## 受注高

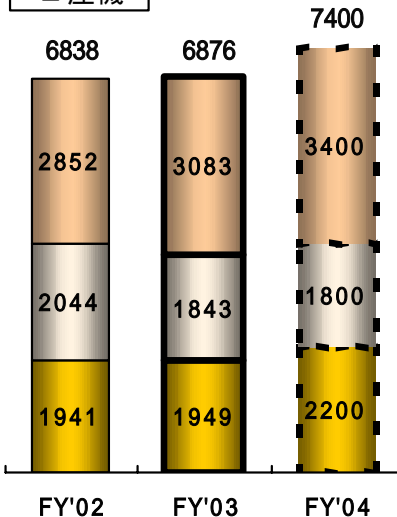
## 売上高

## 営業損益

■ 汎特  
■ 冷熱  
■ 産機



■ 汎特  
■ 冷熱  
■ 産機



FY'02  
34

98

FY'03

120

FY'04

### [事業環境・受注]

- 国内は景気回復の兆しが見える一方、価格競争が継続するなど、依然厳しい事業環境。
- 海外は低迷していた米国需要が上向き、アジアは中国向を中心に需要旺盛。

### [売上/損益]

- 印刷機械等、産業機械を中心に中国をはじめアジア向けの輸出売上高が増加したほか、海外子会社の業績が大幅に改善、部門全体でも前年度比で増収・増益(黒字)。

### [トピックス]

- 工作機械: 栗東工場に最新鋭工場完成、生産体制再編完了、2003.10より生産開始
- 汎用機、冷熱: 中国・上海にターボチャージャー、加エアコン生産子会社を設立

### < FY'04業績見通し: 受注 / 売上 / 営業損益 >

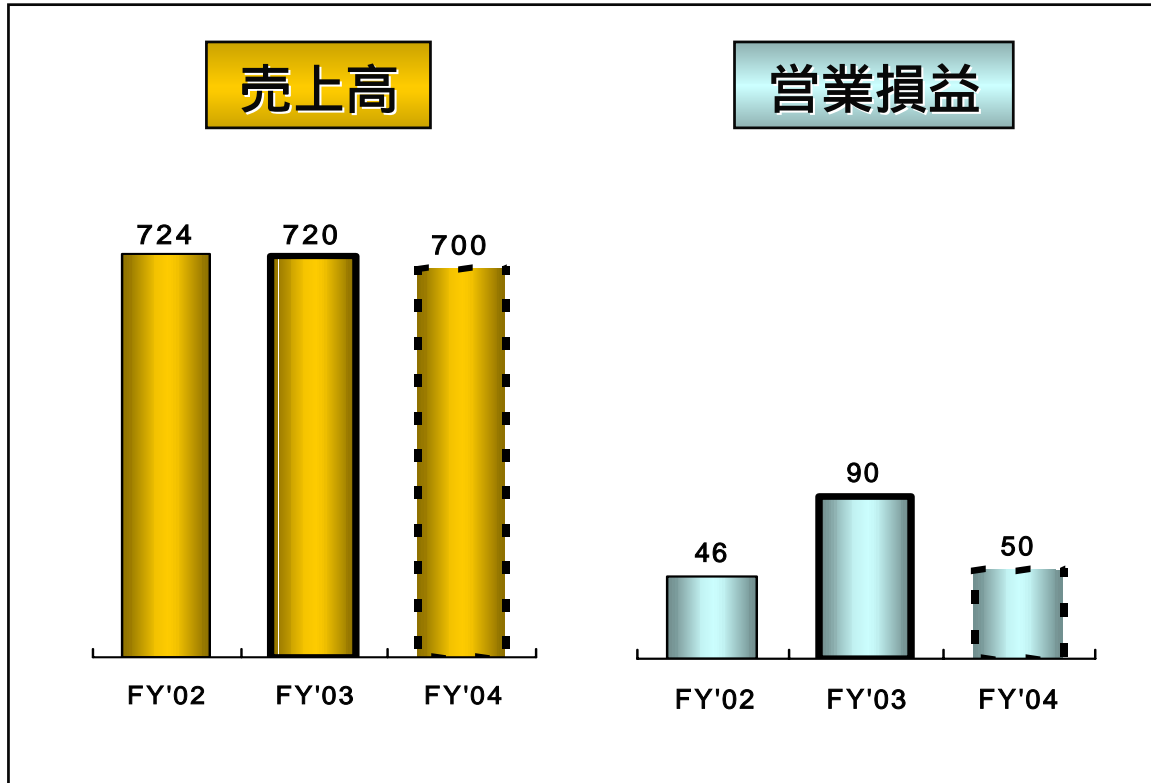
FY'04見通し : 7500 / 7400 / 120

FY'03実績 : 7271 / 6876 / 98

(見通し 7200 / 7200 / 60)

# その他

(億円)



- ・建築・不動産
- ・情報・通信サービス
- 他

<FY'04業績見通し: 売上 / 営業損益>

FY'04見通し: 700 / 50

FY'03実績 : 720 / 90

(見通し 700 / 80)

# 2004年度 通期の業績見通し(連結)

(年度)

(単位:億円)

	'03	'04	
	実績	見通し	増減
受注高	26,628	27,000	372
売上高	23,734	26,000	2,266
営業損益	666	550	116
経常損益	297	370	73
税引前損益	501	370	131
当年度損益	217	220	3

為替レートは1ドル=@ ¥105、11-0=@ ¥130の前提 (未確定21億ドル, 5億1-0)

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみには依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

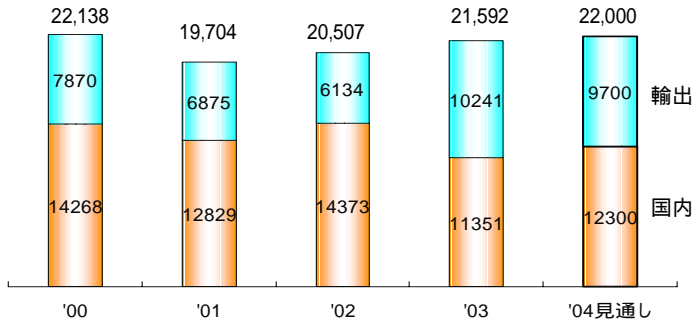


# 2004年度見通し(受注)

	'00	'01	'02	'03	'04見通し
連結	26,403	24,249	24,809	26,628	27,000
単独	22,138	19,704	20,507	21,592	22,000

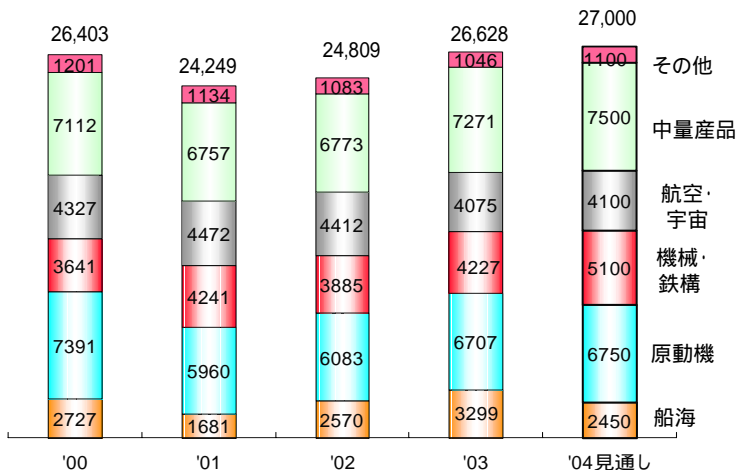
(億円)

<単独受注の推移:国内・輸出別>



(億円)

<連結受注の推移:セグメント別>



## '03年度の評価

## 輸出が7年ぶりに1兆円超過

【受注品】大型プロジェクトの受注(コンテナ船、アジア向火力発電プラント等)

【中量産品】中国・アジア向押出・射出成形機、製紙・工作機械、欧米向フォークリフト、エンジン、ターボ等

【新製品】PCB処理設備、フォークリフト、マシセン、大型加工機、新聞輪転機等

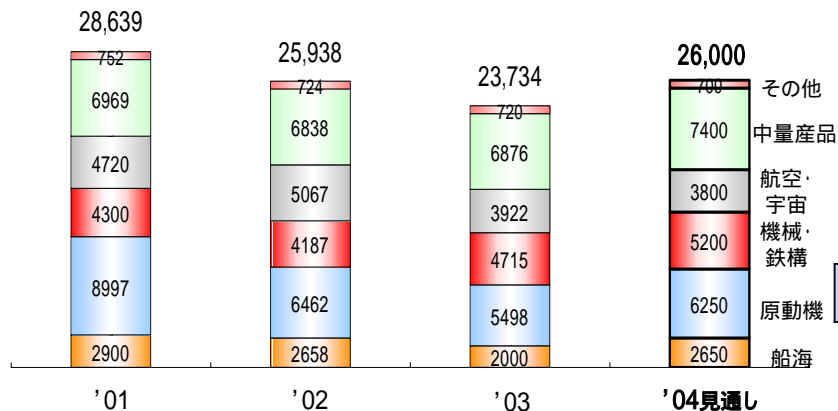
## '04年度重点施策

- 船舶・海洋：
  - 市場活況下で高付加価値船に注力(LNG船、大型コンテナ船等)
- 原動機：
  - 電力向老朽化更新、国内民間案件(GTCC)確保
  - アジア、中南米向輸出案件(GT等)の確実な受注
  - 提案型営業で輸出サービス拡大
- 機械・鉄構：
  - 国内環境装置、橋梁等の鉄構製品の確実な受注
  - 北米、アジア向APM案件の必注
  - 中近東、アジア向メタノール、アンモニアプラント等に注力
- 航空・宇宙：
  - ボーイング7E7プロジェクトの立上げ
  - BMDへの積極的対応
- 中量産品：
  - 中国向輸出拡大(フォークリフト、ターボ、エンジン、製紙機械、工作機械)
  - 欧米向フォークリフト、エンジン、ターボの輸出拡大
  - 国内専業販社体制、新型製品投入効果の刈り取り

# 2004年度見通し (売上・損益)

## 売上(連結)

(億円)



## 売上

‘03年度で底を打ち‘04年度から回復

- ・ 殆どのセグメントで対前年度売上増

## 損益

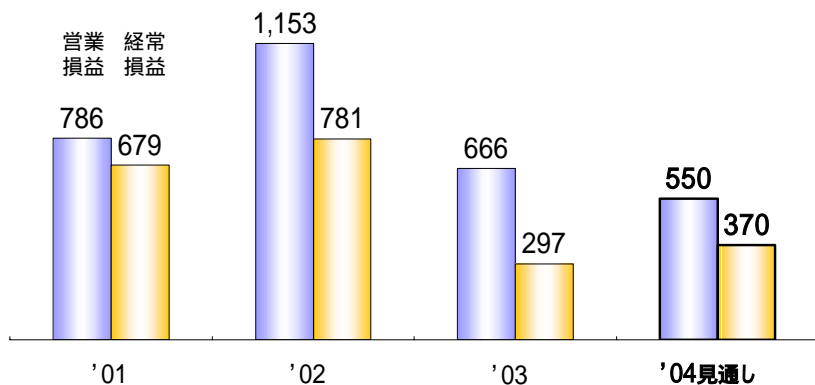
営業損益 550億円

- ・ 対前年度比 116億円

- ・ 積極的に研究開発投資、設備投資を拡大

## 損益(連結)

(億円)



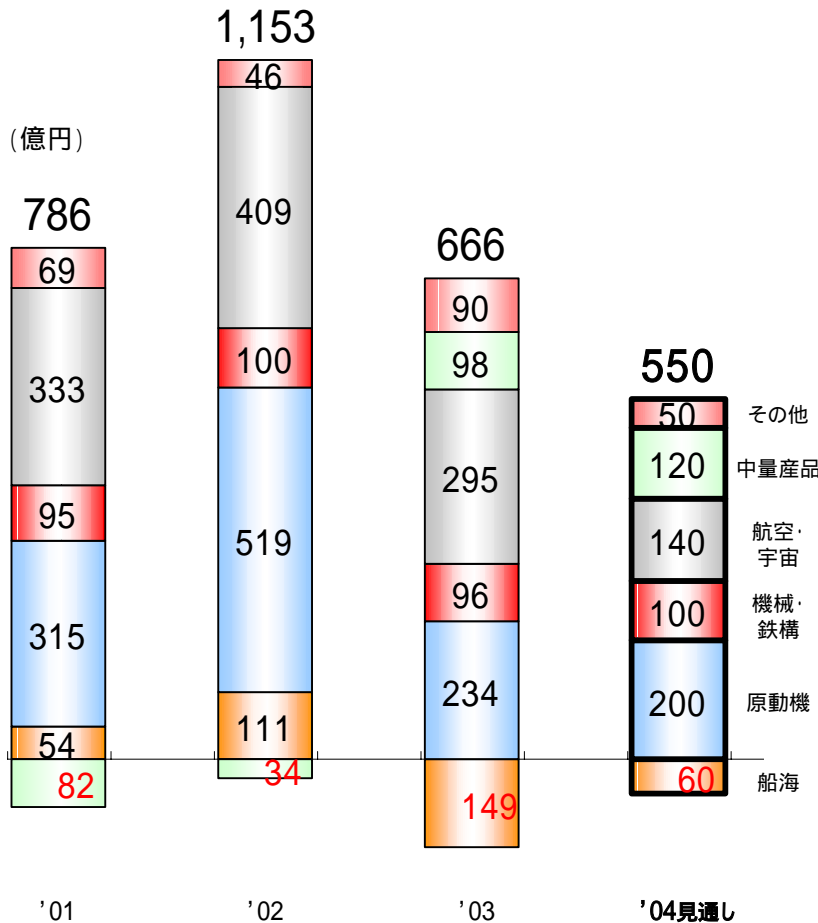
経常損益 370億円

- ・ 対前年度比 +73億円

- ・ 為替差損の減少

# 2004年度見通し (損益)

## セグメント別営業損益の推移



## 主要施策

### 船海

- ・ 為替120円/\$時の受注船への対応
- ・ 設計、建造ノウハウ共有化、固定費削減等のコスト低減加速
- ・ 新型船型 (LNG船、コンテナ船) の開発推進

### 原動機

- ・ 主機の性能・信頼性向上による競争力強化
- ・ 海外プラントの増加に対応し、EPC能力向上

### 機械・鉄構

- ・ 海外大型プロジェクトの着実な遂行
- ・ 橋梁の競争力強化による安定利益確保  
(現地工事直営化、新工作技術開発等)

### 航空・宇宙

- ・ ボーイング7E7プロジェクト推進のための投資拡大

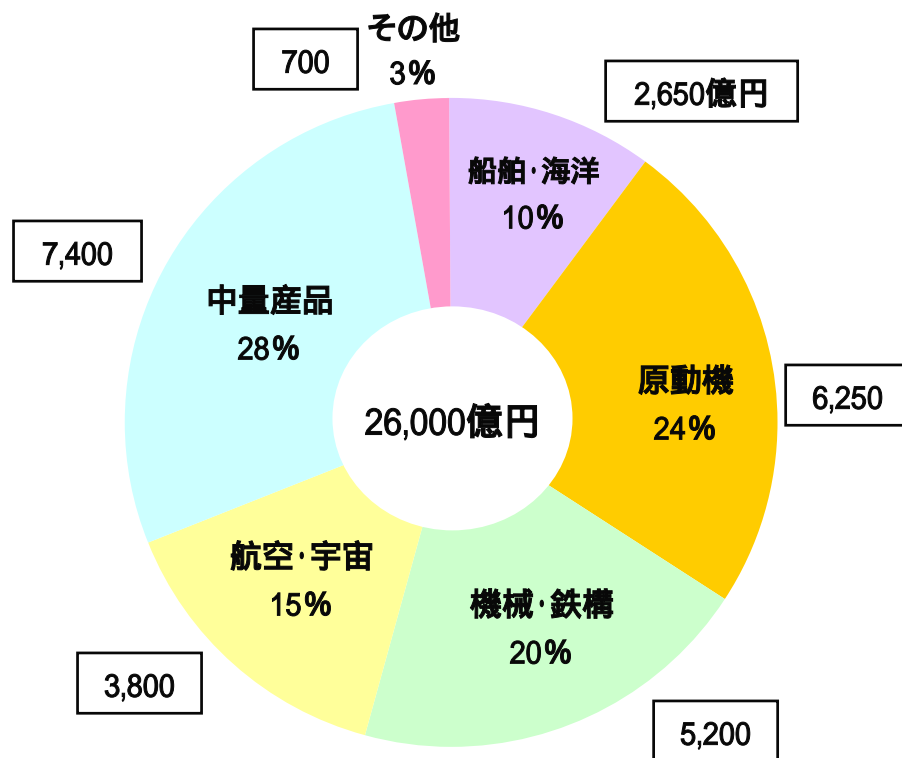
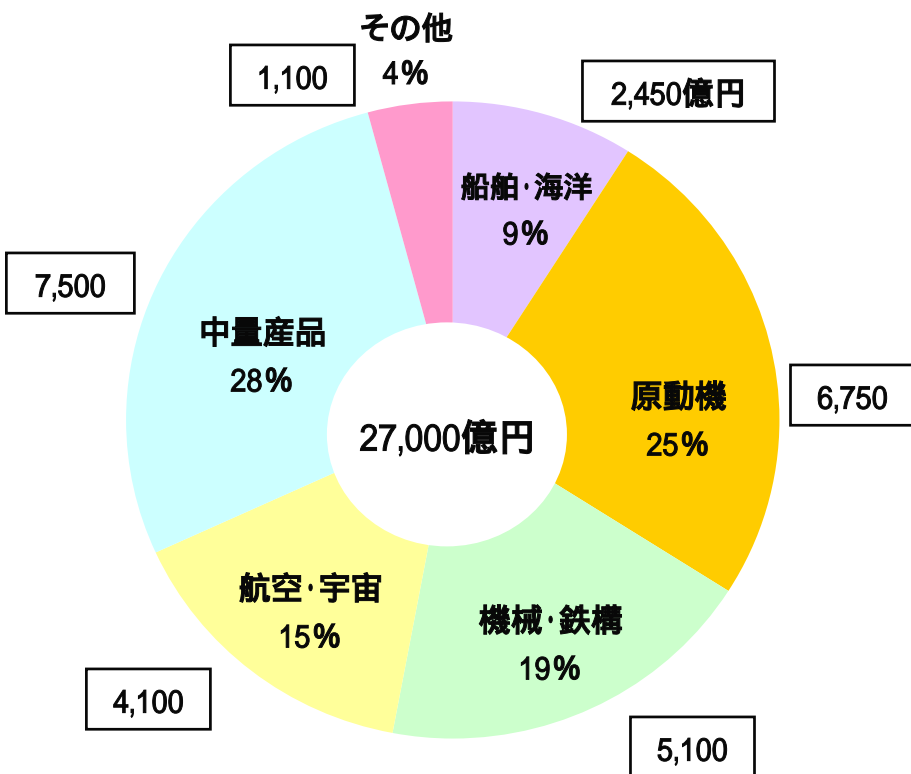
### 中量産品

- ・ 新製品投入効果発揮 (フォークリフト、新聞輪転機、マシンングセンタ)
- ・ 中国展開加速 (小型エンジン、フォークリフト、製紙機械)
- ・ 生販一体運営の強化 ('04/4製品別販社へ再編)

# 連結セグメント別・2004年度見通し

## 受注高

## 売上高



# 2004年度 通期の業績見通し(単独)

(年度)		(単位:億円)		
		'03	'04	
		実績	見通し	増減
受	注 高	21,592	22,000	408
売	上 高	19,401	21,500	2,099
営	業 損 益	352	360	8
経	常 損 益	75	200	125
税	引 前 損 益	237	200	37
当	年 度 損 益	52	100	48
一株当たり 配当金	中間配当金	3 円	0 円	
	年間配当金	6 円	4 円	

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。